

## 秋田県の人材を育てるために行動する社長会議特別講演会の概要

日時：平成31年3月26日(火) 14:30～16:00

場所：秋田キャッスルホテル 4階 放光の間

平成31年3月26日(火)に第5回目となる社長会議を開催しました。今回は「いい会社をつくりましょう」の著者で知られる伊那食品工業株式会社の最高顧問である塚越寛氏を秋田にお迎えしての特別講演会を実施しました。

塚越寛氏プロフィール：

1937年長野県生まれ。1958年伊那食品工業(株)に入社。寒天の安定供給体制を確立、新商品開発に取り組んで市場を開拓。1983年に社長に就任。2005年に取締役会長、2019年から現職。社是は「いい会社をつくりましょう」。そして会社経営の目的は、社員の幸せを通して社会に貢献すること。「年輪経営」の企業づくりを目指している。創業の年から48期連続の増収増益を計上したことで知られる。主な著書：「いい会社をつくりましょう」、「リストラなしの年輪経営」等

### ○開会あいさつ

特別講演は14時30分から秋田キャッスルホテル4階放光の間を会場に行われ、社長会議企業のほか、県内の中小企業の経営者など約60人の聴講者が集まりました。

特別講演に先立ち、湯元巖あきた未来創造部長から挨拶があり、引き続き、伊那食品工業株式会社の紹介ビデオを上映。その後に塚越寛最高顧問による講演に入りました。

秋田県の人材を育てるために行動する社長会議  
特別講演会

中小企業の作り方  
魅力ある

平成31年  
3月26日 火 14:30～18:00  
秋田キャッスルホテル 4階 放光の間

主催者  
秋田県秋田地域振興局

お問い合わせ  
秋田地域振興局 総務企画部 地域企画課  
〒010-0951 秋田市山王四丁目1-2  
☎018-860-3313 FAX018-860-3860

講演会の申込方法  
裏面の申込書に必要事項を記入の上、3/20までFAXでお申し込み下さい。

参加無料  
定員100名

講師 塚越 寛  
伊那食品工業㈱ 最高顧問  
1937年長野県生まれ。1958年伊那食品工業(株)に入社。寒天の安定供給体制を確立、新商品開発に取り組んで市場を開拓。1983年に社長に就任。2005年に取締役会長。2019年から現職。社是は「いい会社をつくりましょう」。そして会社経営の目的は、社員の幸せを通して社会に貢献すること。「年輪経営」の企業づくりを目指している。創業の年から48期連続の増収増益を計上したことで知られる。主な著書「いい会社をつくりましょう」、「リストラなしの「年輪経営」」等



## ○特別講演会

演題「魅力ある中小企業の作り方」講師 伊那食品工業株式会社 最高顧問 塚越寛 氏

### 〔年輪経営は毎年少しずつ、確実に伸びる〕

- ・伊那食品工業株式会社は長野県に本社を置く寒天づくりの食品製造メーカー。社員は約500人、売上高は約200億円、経常利益は約7%から12%。
- ・当初は小さな会社であったが、現在では、トヨタ自動車や関連会社などの経営者が、塚越氏の年輪経営に関心を持ち、訪問するような会社となった。
- ・年輪経営について「年輪は暑くても寒くても、毎年僅かに成長する、年輪経営は毎年少しずつ、確実に伸びる、景気のせいにはしない、頼らない、会社に終わりはない。今後も確実に成長する。永続する。」これこそが、会社のあるべき姿。
- ・二宮尊徳の「遠くをはかる者は富み、近くをはかるものは貧す」という言葉から、現状に甘んずることなく、常に10年後、20年後、30年後をどのようにすべきかを考えるということが大事。
- ・これからの世の中は、技術進歩と価値観の変化が訪れる。大事なものは人間の価値観の変化であり、価値観の変化を読むのが経営者の仕事である。



### 〔人生は健康こそ大事〕

- ・高校2年生の時に肺結核を患い、昭和30年代に3年間の闘病経験から人生は健康こそ大事と悟る。
- ・入社当時は、工場内の溶接、配管工事などを社員みんなが苦勞しながら作業していた。社員のことを考え、工場など職場環境の改善に努めた。
- ・社内に100年カレンダーを掲げ、「人の人生は、将来訪れる命日に向かって毎日減っていく、人生は一度だけ、繰り返し、やり直しはないので、生きているうちに、幸せな一日を送りなさい。」と諭す。人生という長い時間だと、その時間の大切さの感覚が分からなくなってしまいがちで、如何に幸せな人生を送るかが大切。



### 〔経費節約はしていない。〕

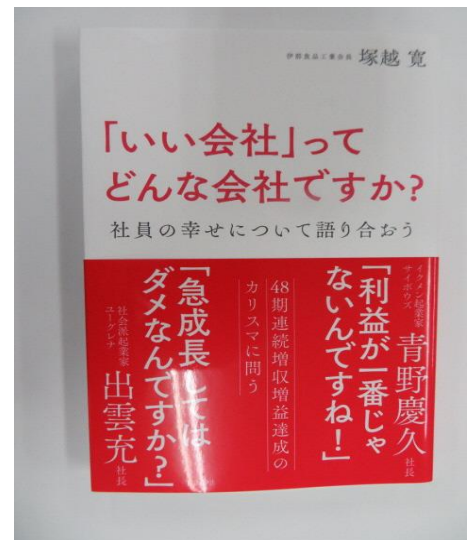
- ・経費は他の会社の売上げであり、日本中の企業が経費削減をしたら不景気になる。会社では経費節約はしていない。

- ・会社で費用の一部を負担する国内や海外の社員旅行を48年前から行っている。社員全員が10班に分かれて旅行する。
- ・社員の健康を気遣ったり、本当に考えてくれる社長には、社員はみんなついてくる。本社は3万坪の敷地の中にあり、その広い敷地を社員が朝早く出勤して、自発的に掃除している。社員が自発的に応えようという思いにつながっている。



### 〔社内のコミュニケーションが大事〕

- ・信州ではお茶を飲みながら野沢菜を食べる習慣があり、社内でも10時と3時の休み時間はお茶を飲み、お菓子を食べながらコミュニケーションをとっている。その際のお茶菓子代手当として毎月1人500円を支給。
- ・社内のコミュニケーションが大事であることから月に1回は、社員全員が出席する会議を開き、朝礼は当番社員を決めて行っている。
- ・会社の理念を周知させるため、「いい会社をつくりましょう」という本を書いて社員に配布。会社の理念を終始徹底させることは難しいことであり、社長がどのような会社にしたかが大事。



### 〔みんなで助け合って〕

- ・会社では、素直な性格、協調性のある人を採用するようにしている。みんなで助け合って社員全員のモチベーションが上がると想像以上の成果がでる。
- ・どのような組織でも、どんなに優秀な人だけ集めても優秀な人2割、普通な人6割、そうでない人2割になる。それを分かった上でみんなに対等に仕事を与えることが必要であり、給与は年功序列を貫いている。
- ・印象に残っている本は、出光興産の創業者の出光佐三氏が書いた「働く人の資本主義」。人間を大切にしなければならないという考え方の基になっている。